

人が天體を仰ぐごとく只だ外觀的の事實だけで宜しい、楯と顯  
微鏡の必要は決してない（有つては悪いといふ意味ではない）  
から、あまり細條に亘つて、智識のために構成的に描くのは宜  
しくない、併し自然物體のうち、人體や、植物や、動物の、組  
織構造が詳しく知られてゐるだけ、それだけ、山水のそれは、  
閑却せられてゐるかの傾向が、今でもありはしまひかと疑はれ  
る。

今回の作品のうちで、岩石を比較的精確に描かれたのは、吉田  
博氏の富士と、丸山氏の妙義山で、前者は精緻な上に一種の情  
調が出たが、「自然の表現」としては缺けてゐる、後者は忠實に自  
然を描くといふ心がけがありながら、重濁疊抹に陥つて、「生き  
た」ところが少ない、大下氏のは、やはり水とか、樹木とか、  
丘陵とかいふ前景が克つてゐるやうで、山岳には力の表現が乏  
しいのを憾みとする、この他にも山岳畫として可なり、見られ  
るものが多かつたが、さまでばと、省略することにした。

### 水繪の發達

水繪は英國以外の國に優秀なるものを見るのが出來ぬといふの  
は間違ひで、素より現今の水繪とは同じかられど、デュレル  
やレンブラントの如きは優れたるドローイングを遺し、またオ  
スタードの如きも完全なる作品を遺したり。

英國の水繪の發達は、これ等の影響のほか十八世紀の頃流行せ  
る風土記などに圖畫の必要を感じ、最初は空は藍、樹木は綠と

いふ風に單純なる暗示を與ふる位ひの色彩となり、漸次發達し  
て遂にターナーの天才を生むまでに及びたるなり。

ターナーは十八世紀の四十八年に生れ、マルトンは是に八年を  
後れて世に出て、當時高名なりレスコットに學べり。

ホイットレー（一七四一—一八〇一）は其思想稍感情的なりしもよ  
く輕快なる筆端に其平靜を表はし得たるは彼にとつて特筆すべ  
きことなり。（されどコンズン（一七五二—一七九九）に至つては  
實に峻嚴なる詩人とも云ふべきか。常にクラシツクの伊太利  
を畫きて莊重を極めたり。ターナーは（一七七五—一八五一）は  
人も知る空前の大才にして、偉大なる彼れの手筆を以てしては  
何もの、畫き難きものなかりしが如し。

是と時を同ふして、またガーヂン（一七七五—一八〇二）出でし  
も不幸にして短命なりし。これに次いでコツトマン（一七八二—  
一八四二）ドゥイント（一七八四—一八四九）また同時に出て、  
よく秀拔なるスケッチをなせり。

コックス（一七八三—一八五九）は以上の諸天才と比肩し得べき  
ものなり。

かくてこれ等の人の技法を傳へし、コリアーに至つて始めて現  
代の畫家に接するなり。この他猶水彩畫に巧なるもの非常に多  
く、殊にこの技の尤もよく發達したる英國のこととして、畫筆を  
とるものにして水繪を描かざるもの殆どなしと雖も、要するに  
上記諸家の流れをくめるものなり。（K生譯、美術新報）